

I. 平成22年度フォローアップ結果のポイント

○計画期間;平成20年3月～平成25年3月(5年1月)

1. 概況

基本計画の目標を達成する核事業の市立病院が平成23年3月16日に開院するとともに、高齢者向けバリアフリー仕様の市営住宅20戸が平成22年10月に完成、さらには図書館の街なか移転事業、(仮称)まちづくりセンターについても、平成23年度に予算化されるなど基本計画の掲載事業については順調に進んでいる。

中心市街地の状況は、街なか居住人口の増加、市民と商店街との協働イベントによりコミュニティの醸成は図られているものの、商店街DI(景況)調査では、売上・客数・景気とも景況ポイントが-65ポイント以上であり、依然として厳しい経済状況にあり、特に小売販売力が低下していると推測される。

空き店舗については、チャレンジショップからの独立ならびにチャレンジャーの入店など、新規創業が見られるなど明るい兆しも見えるが、高齢化、後継者不足による廃業等の課題もあり、現状、横ばいの空き店舗数は、今後、増加することが懸念される。

しかし、中心市街地活性化委員会とNPO法人ならびに市民活動団体と商店街等が、各種イベントを通して連携を図り、情報交換、協力体制など中心市街地における横の連携ならびに協力体制が構築されつつある。さらには、街なかイベントでは、商工会議所女性会、青年会議所、農業者、短大生、高校生などが「街なか応援団」として参画するなど、賑わい創出の仕組みづくりも進んでいる。また、中心市街地を舞台とする「街なか来てください」などの大きなイベント、市民有志と若手商店者による「たきかわスイーツアクションプログラム」プロジェクトの取り組みや市民と商店街の連携による「街なかウォーキング」の開催などは、地域住民から高い評価を得ている。

なお、基本計画主要事業の推進状況は、掲載する24事業(ハード系4事業、ソフト系19事業)のうち23事業が完了及び実施中、1事業が未着手の状況である。

2. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
街なか居住推進	街なか居住人口	2,660人 (H18)	2,800人 (H24)	2,573人 (2,825人) (H22)	①	①
市民活動の活性化	コミュニティ施設等 利用者数	64,773人 (H18)	112,000人 (H24)	96,798人 (H22)	①	①
賑わい創出	歩行者・自転車通行量	7,008人 (H19)	10,000人 (H24)	9,301人 (H22)	①	①
	空き店舗数	38店 (H18)	30店 (H24)	39店 (H22)	②	②

注) ①取組(事業等)の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。

②取組の進捗状況は概ね予定通りだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

③取組の進捗状況は予定通りではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。

④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

⑤取組が実施されていないため、今回は評価対象外。

3. 目標達成見通しの理由

- ① 「街なか居住の推進」については、高齢者向けバリアフリー市営住宅建設事業が完了するとともに、滝川市立病院改築事業が順調に進んでいる。また、民間活力による高齢者専用賃貸住宅や集合住宅の建設が着実に進んでいる。その他の掲載事業についても計画どおり進めており、施策の効果が現われていることから目標達成は可能であると見込まれる。
- ② 「市民活動の活性化」については、中心市街地活性化委員会とNPO法人ならびに市民活動団体と商店街等が着実に連携を図り、情報交換、協力体制が構築されつつある。さらには、街なかイベント等において商工会議所女性会、青年会議所、農業者、短大生、高校生などが「まちなか応援団」として参画する仕組みができつつあることから、目標達成は可能であると見込まれる。
- ③ 「賑わいの創出」については、商店街拠点づくり事業や賑わい再生ロード事業などの事業展開により中心市街地の再生・活性化を図り、賑わいの創出、回遊・滞留ルートの形成が出来つつある。街なか通行量については、天候等に左右されるものの増加している。今後、市立病院改築事業や市立図書館の移転、(仮称)まちづくりセンター整備事業が完了することから、街なかへの回遊性の向上が図られることから目標達成は可能であると見込まれる。

空き店舗数については、計画掲載事業である情報発信事業やチャレンジショップ事業により新規出店は見込めるものの、経済情勢の低迷及び消費者ニーズの多様化、購買力の低下さらには、商業経営者の高齢化、後継者不足による閉店を余儀なくされる状況であるため、目標達成が難しいことから、今後新たな仕組みを構築する必要がある。

4. 前回フォローアップと見通しが変わった場合の理由

特になし

5. 今後の対策

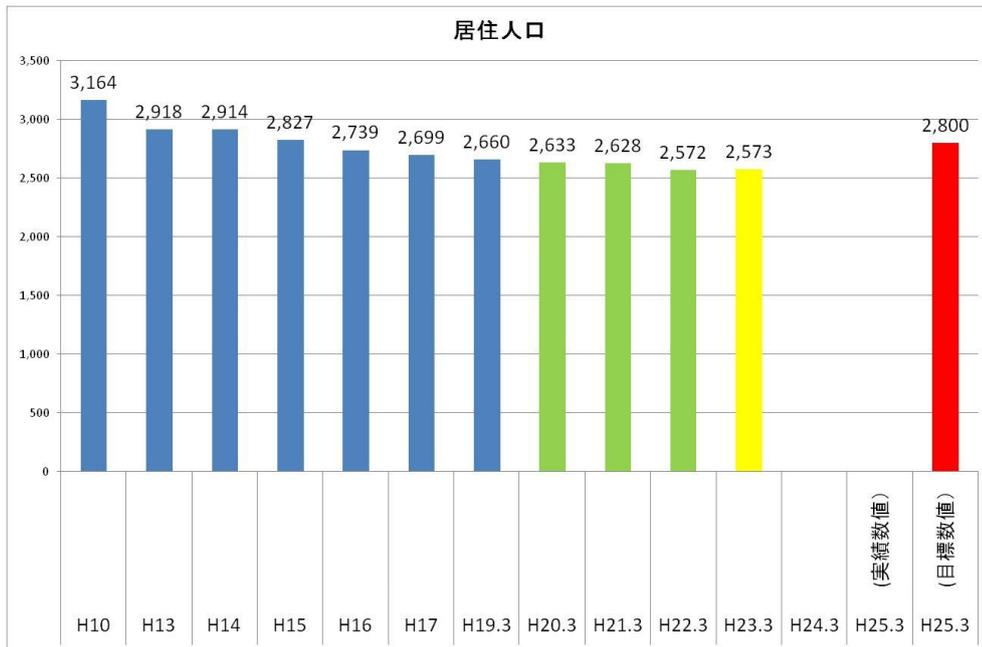
- ・基本計画の実施3年目を経過し、賑わいの創出をはじめとする各種取組みにより事業の成果が着実に上がっていることから、引き続き、掲載事業を積極的に推進と新たなソフト事業を取り入れることにより設定した目標値を達成したい。
- ・街なか居住については、現状としては目標値を達成したが、引き続き、情報発信事業や共同住宅建設補助のPRを行い居住人口の増加を目指す。
- ・コミュニティ施設の利用者数については、拠点施設を「高齢者ふれあいサロン まちぷら」として機能の充実を図るとともに、(仮称)まちづくりセンターの積極的活用により集客力向上を目指す。
- ・街なか通行量については、市立病院の開院、図書館の街なか移転、(仮称)まちづくりセンターの設置により新たな集客施設と既存のコミュニティ施設との連携強化、賑わい再生ロード事業の継続による回遊・滞留効果により、賑わいの創出を図る。
- ・空き店舗対策については、情報発信事業やチャレンジショップ事業、家賃助成事業を実施しているが、廃業が新規出店を上回っていることから、目標達成は困難が予想される。新たな対策として、新規出店に阻害となっているアーケード対策や大型小売店舗の再生に向けた施策に取り組む。

Ⅱ. 目標毎のフォローアップ結果

目標「住みよい生活ステージ形成によるまちなか居住の推進」

「街なか居住人口」※目標設定の考え方基本計画 P57～P59 参照)

1. 調査結果の推移



年	(単位) 人
H18	2,660 (基準年値)
H19	2,633
H20	2,628
H21	2,572
H22	※[2,825] 2,573
H23	
H24	2,800 (目標値)

調査方法； 中心市街地区域での住民基本台帳登録人口

※H22年度以降住民基本台帳登録人口+集合住宅実態調査の値を合算し[]で表示

調査月； 平成23年3月末時点

調査主体； 滝川市

調査対象； 中心市街地内居住者

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 高齢者向けバリアフリー仕様の市営住宅建設事業（事業主体名） 滝川市

事業完了時期	【済】平成22年度
事業概要	民間投資による共同住宅建設を促すために行政の役割である公営住宅を先導的役割として、中層建て20戸で冬期間にも快適な生活が享受できる高齢者向けバリアフリー住宅を建設する。
事業効果又は進捗状況	市営住宅建設事業は、平成22年9月24日に完成した。入居希望者多数のため抽選を行い、10月1日に20戸42人が入居した。計画においては、入居者数の見込みを53人としていたが11人下回る結果となったが、街なか居住推進のための起爆剤的な役割を果たしている。

②. 街なか居住推進補助事業（事業主体名） 滝川市

事業完了時期	【実施中】平成24年度まで
事業概要	民間投資による共同住宅建設を促すために補助制度の運用により、街なかでの居住者を増加させる事業
事業効果又は進捗状況	平成22年度は、民間投資の意欲向上を図るために、補助制度の要件緩和（非木造10戸から6戸、木造6戸から4戸とする）を行い、利用促進を図った。市内金融機関、建設業者、建築士会などから問い合わせが5件、相談1件あるが制度は活用されなかった。制度の要件緩和により、区域内の商業者から店舗兼共同住宅の事業化に向け

て具体的な相談が来ていることから、次年度において事業の取り組みが見込める状況にあり一定の成果が見込まれる。

③. 街なか居住推進インフォメーション事業 (事業主体名) 滝川市

事業完了時期	【実施中】平成24年度まで
事業概要	市元気タウン推進室において街なか居住に関するワンストップサービス総合窓口を開設する事業。
事業効果又は進捗状況	平成22年度は、引き続き、不動産会社、商店街振興組合、建設業者などと仕組みや情報収集の整理を行い、情報発信に取り組んでいる。

④. 滝川市立病院改築事業 (事業主体名) 滝川市

事業完了時期	【未】平成23年度
事業概要	中心市街地エリアに位置する滝川市立病院は、主要部分が築後40年以上経過し、狭隘化、老朽化及び耐震診断の結果、目標耐震性能を満たしていないことから、現在地で改築をする。
事業効果又は進捗状況	平成22年度は、本体工事がおおむね11月に完了し、3月16日に新病院を開院した。なお、既存建物解体ならびに外構工事が未着手のため完成は平成23年10月予定であり、工事の工程は順調に進んでいる。 また、商店街ポイントカード事業と連携し、プリペードでの医療費が支払い可能となったため、商店街への回遊性が見込まれる。

⑤. 図書館移転事業 (事業主体名) 滝川市

事業完了時期	【未】平成23年度
事業概要	現図書館は市街地のはずれに位置し、老朽化により建て替えが必要になったが、中心市街地の活性化のために現在地ではなく、市役所の2階及び地下1階の一部を有効活用する形で移転する。
事業効果又は進捗状況	平成22年度は実施設計を完了した。平成23年度は、移転工事を行い11月上旬に開館する予定である。工事の工程は、順調に進んでいる。 現在、図書館と商店街振興組合が、商店街への回遊向上のための連携事業を組み立てているため街なかへの回遊が期待できる。

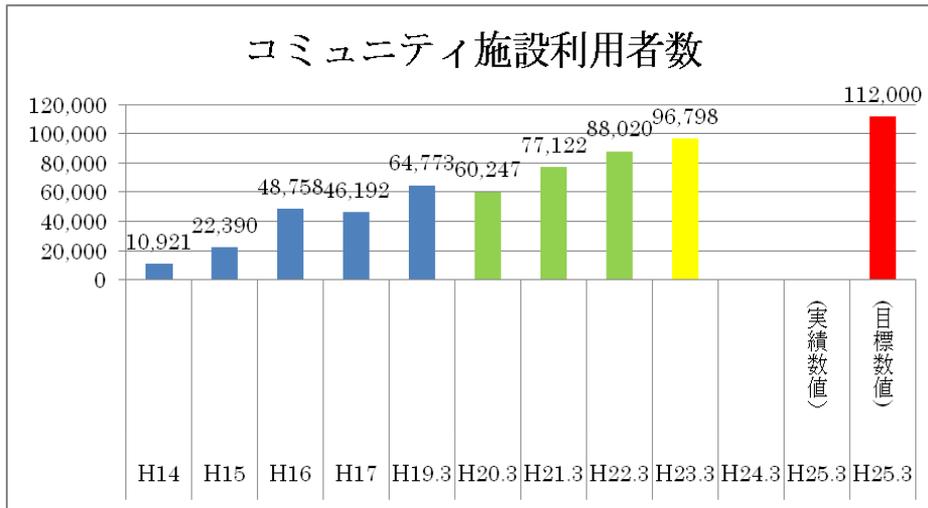
3. 目標達成の見通し及び今後の対策

- 平成20年度以降、エリア内において集合住宅が建設されているにもかかわらず居住人口が比例していないことから、集合住宅実態調査を実施したところ住民基本台帳に反映されていない居住者がいることが判明し、中心市街地区域の住民基本台帳登録人口に実態調査数値を加えた値で整理している。
- 街なか居住人口は、平成19年度から平成21年度に民間活力による集合住宅建設(1棟22戸×2、16戸×1、12戸×1、2棟8戸×2)及び老人ホーム(1棟56戸)、高齢者向け共同住宅(1棟35戸×1)が建設され満床状況になっている。
- 平成22年度には、市営住宅事業(1棟20戸)、民間投資による集合住宅(1棟4戸×1、1棟6戸×1、1棟8戸×2)及び小規模多機能居宅介護併設の高齢者専用賃貸住宅等(1棟38室)が完成し、居住人口の増加が見込める状況にある。
- 今後も、民間投資の意欲向上のため街なか居住推進補助事業の推進、街なか居住推進インフォメーション事業の充実を図るとともに、現在、市立病院改築事業、図書館移転事業も予定通り進んでいることから、目標達成は可能であると見込まれる。

目標「商店街協働コミュニティ形成による市民活動の活性化を図る」

「コミュニティ施設利用者数」※目標設定の考え方基本計画 P60～P65 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位) 人
H19	64,773 (基準年値)
H20	60,247
H21	77,122
H22	88,020
H23	96,798
H24	
H24	112,000 (目標値)

※調査方法；各施設年度利用者数調査

※調査月；平成23年3月末時点調査、4月取りまとめ

※調査主体；滝川市

※調査対象；くつろぎ処、チャレンジコミュニティカフェ、たきかわホール、街なか地域交流施設「くるる」暮らしのショールーム 5施設 ※(仮称)まちづくりセンターは、未開設

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 商店街拠点づくり事業（事業主体名）滝川市商店街振興組合連合会

事業完了時期	【実施中】平成24年度まで
事業概要	<p>空き店舗を活用した2拠点整備とチャレンジショップ等の空き店舗対策事業をパッケージで実施し、商店街の集客力向上と魅力アップにつながる事業を拠点で展開することにより商店街の賑わい創出を図る事業</p> <p>●調査対象(2拠点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くつろぎ処 (中心市街地商店街の活動拠点として各種イベント等での活用、地元農産物を活用した食事を提供するレストランなどを兼ね備えた拠点。) ・チャレンジコミュニティカフェ (若者向けのカフェとして設置。若い世代を中心に、短大生、高校生の力を借りながら、街なかの賑わいを取り戻すための拠点。)
事業効果又は進捗状況	<p>くつろぎ処及びチャレンジカフェともにそれぞれが特徴を生かした事業を展開し集客力向上に取り組んでいる。平成22年度末利用者数は、くつろぎ処9,301人、チャレンジコミュニティカフェ15,248人と昨年と同じ程度の利用となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くつろぎ処は、各商店街や市民団体の連携拠点として、もちつき大会など各種街なかイベント拠点会場ならびに地域公共交通事業のバス待合所として利用されている。また、農業者の協力により開催された軽トラ市では、地元食材を活用した特別メニューを提供するなど地元農産物の地産地消運動のPRに努め、賑わいの創出に寄与している。 ・チャレンジコミュニティカフェは、年間を通して多くのミニイベント(サッカーワールドカップ、J2コンサドーレ札幌応援、プロ野球北海道日本ハム応援など)を開催し、コミュニティ

づくり及び中心市街地内の賑わいに大きく寄与している。

②. (仮称) まちづくりセンター整備事業 (事業主体名) 滝川市

事業完了時期	【未】平成23年度
事業概要	(仮称)まちづくりセンターは、まちづくり推進のために積極的に事業に取り組む町内会や市民活動団体、NPO法人等の連携のもとに中心市街地をはじめとする地域の交流及びコミュニティ活動、活性化など様々な事業に取り組む市民活動の拠点であるとともに中心市街地において誰でも気軽に集い交流を深めるための拠点となる魅力ある施設となることを目指す。
事業効果又は進捗状況	平成23年度において市民の交流及びコミュニティ活動の促進を図る拠点を整備し、地域住民の相互交流及びコミュニティ活動などの支援、まちづくりに関する情報発信を行うとともに市民がゆったりとくつろげて気軽に交流を深めることのできる憩いの場としての交流空間づくりを行い、賑わいの創出にも寄与できる事業を展開する。平成24年1月上旬の開館を予定している。事業効果としては、12,000人の利用を見込む。

③. NPOたきかわホール事業 (事業主体名) NPO法人たきかわホール

事業完了時期	【実施中】平成24年度まで
事業概要	滝川市が所有する「たきかわホール」を文化活動関係者のみならず学生や主婦層、中高年齢者層にも文化活動等に対する関心をもってもらう事業を展開することにより、市民交流活動の活発化と商店街の賑わい創出を図る事業。
事業効果又は進捗状況	平成22年度は、自主事業として「市民劇の公演」、地元出身の「落語会の開催」、「映画上映」をはじめ市民文化団体の発表など様々な取り組みを行うと共に文化活動団体と連携し、特徴を生かした事業を展開し、集客力向上を図る取り組みを行っている。平成22年度は、昨年比13%増の15,459人の利用者数となっており、取り組みの成果が見られる。平成23年度は、ホールの更なる活用向上に向け、ホームページを活用し情報発信を行い、利用者増に努力する。

④. 街なか地域文化交流広場く・る・る (事業主体名) NPO法人たきかわホール

事業完了時期	【実施中】平成24年度まで
事業概要	駅前ひろば「く・る・る」は、市民のコミュニティ施設として、駅前再開発ビル内において事業展開している。施設には、スタジオや会議室が設置され、各サークルや文化団体など市民に活動の場を提供しており、ビーズアクセサリーやパッチワーク等の手づくり作品などの委託販売コーナーや来街者の憩いの場が設けられている。自主的なイベントを企画し、商店街をはじめ高校生や短大生もボランティアとして参加し賑わいを創出するとともに多くの市民に利用されている。
事業効果又は進捗状況	平成22年度は、自主事業として「夏まつり、ながいも祭り、く・る・る de レトロ、手づくりフェスタ」などを実施し、イベントを通じた幅広いコミュニティを形成している。地域の特徴を生かした事業を展開するとともに、賑わいづくりや集客力向上を図るためカフェサービスを取り組んだところ平成22年度は、昨年比24%増の46,655人と大幅に増加した。

⑤. 暮らしのショールーム運営事業（事業主体名）滝川消費者協会

事業完了時期	【実施中】平成24年度まで
事業概要	300人を超える会員の拠点施設として、恒常的な活動により日常の賑わいを創出するとともに、イベントの開催や消費者相談、休憩コーナー（コーヒー、お汁粉等の提供サービス）を通じて賑わいとコミュニティ形成に寄与している事業である。
事業効果又は進捗状況	平成22年度は、自主事業として「消費者相談、リフォーム教室、手づくり教室」を基本に、消費者まつりやイベントの開催さらには街なかイベントにも積極的に参画し、「りやかあさん」など特徴を生かした事業を展開するなど、コミュニティの醸成や集客力向上の取り組みを行っている。平成22年度の利用者は横ばいの10,135人となったことから、更なる利用向上の取り組みを検討する。

⑥. 中心市街地活性化イベント事業（事業主体名）滝川市中心市街地活性化協議会

事業完了時期	【実施中】平成24年度まで
事業概要	商店街の賑わい再生を目指した市民生活・活動のステージとして中心市街地を活用し、市民活動の活性化を図る事業
事業効果又は進捗状況	平成22年度は、昨年に引き続き「街なか来てくだ祭」「日ハム応援招待フェア」や新規に「街なか ちよつ蔵祭」「ベルロード 好きラッチ」「軽トラ市」など 500人～2,000人規模のイベントを開催し、多くの市民の来街により賑わいが生まれ商店街の活性化が図られた。また、商業者・農業者と消費者が連携して取り組んだ地元農産物を活用した「スイーツアクションプログラム」プロジェクトや数多くのミニイベントなどにより「街なか応援団」的な仕組みが出来つつある。

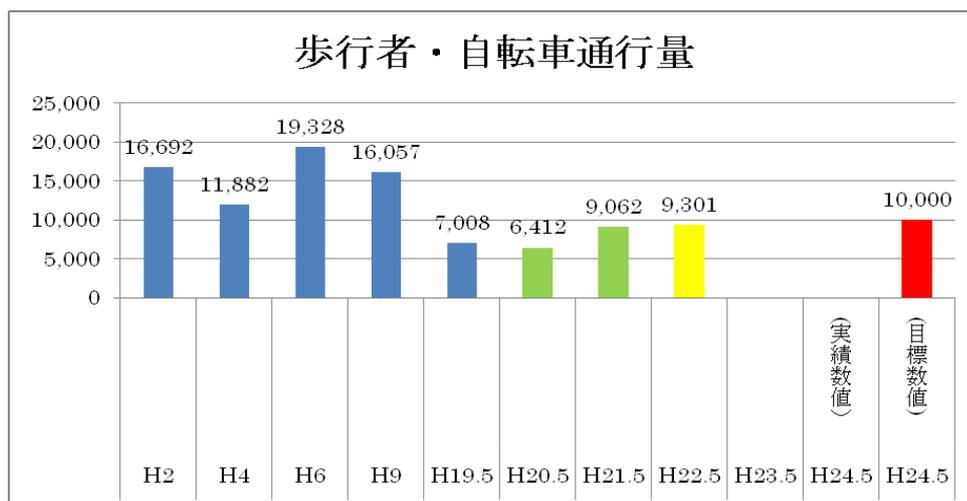
3. 目標達成の見通し及び今後の対策

- ・コミュニティ施設利用者数は、基本計画上6施設としている。
- ・既存の3施設（たきかわホール、く・る・る、暮らしのショールーム）については、ソフト事業の充実、市民参加型イベントの開催により利用率向上に繋がるなど利用者数は順調に増加している。
- ・新規に設置したコミュニティ施設の2施設については、（くつろぎ処、コミュニティカフェ）それぞれの特徴を生かし、数多くのミニイベントや高齢者ふれあいサロン機能を付加するなど利用者の拡大に努めている。
- ・（仮称）まちづくりセンターについては、平成23年度中のオープンに向けて取り組んでおり、平成24年1月上旬の開館を予定している。
- ・中心市街地の賑わい再生のため、各々の組織と市民、商店街とが連携・協働できるかが最も重要なポイントである。その実現に向けて中心市街地活性化委員会が中心となり、各種イベントを通して団体同士の横のコミュニケーションが図られてきていることから、引き続き事業を実施することにより、目標達成は可能であると見込まれる。

目標「回遊・滞留ルートを形成し、街なかに賑わいを創出」

「街なか通行量」※目標設定の考え方基本計画 P66～P76 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位) 人
H19	7,008 (基準年値)
H20	6,412
H21	9,062
H22	9,301
H23	
H24	
H24	10,000 (目標値)

※調査方法；歩行者及び自転車通行量調査（毎年度5月と10月に実施）

※調査月；平成22年5月実施、6月取りまとめ

※調査主体；滝川市

※調査対象；歩行者及び自転車通行者、平日5地点

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 滝川市立病院改築事業（事業主体名）滝川市 【再掲】 P 4 参照

②. 図書館移転事業（事業主体名）滝川市 【再掲】 P 4 参照

③. 居住人口の増加

- ・ 高齢者向けバリアフリー仕様の市営住宅建設事業 【再掲】 P 3 参照
- ・ 街なか居住推進補助事業 【再掲】 P 3 参照
- ・ 街なか居住推進インフォメーション事業 【再掲】 P 4 参照

③. (仮称) まちづくりセンター整備事業 【再掲】 P 6 参照

④. 賑わい再生ロード事業（事業主体名）滝川市

事業完了時期	【実施中】平成24年度まで
事業概要	中心市街地を活性化し賑わいを再生するためには、歩きたくなる・行ってみたくなる魅力的な歩行空間と市街地環境が大切であることから、商店街協働コミュニティ形成にかかる事業と連携し、商店街活性化のための空間デザインとコミュニケーションデザインを行い具体的な実証実験を行う。
事業効果又は進捗状況	<p>実証実験を踏まえ、3つの装置である「挨拶の装置」「迎客の装置」「集客の装置」づくりを実践した。</p> <p>①「挨拶」の装置づくりは、滝川の花である「コスモス」及び日本一の栽培面積を誇る「菜の花」を中心市街地に現出(大型プランター設置)させ、商店街のフラワーストリート事業と合わせて、滝川らしい季節感にあった色とりどりの花で来街者をもてなした。</p> <p>②「迎客」の装置づくりは、活性化拠点やセレクトショップに、木製のオープンカフェセット</p>

を休憩施設として常設し、中心市街地のくつろぎ空間を演出した。

③「集客」の装置づくりは、JR滝川駅広場から商店街のメインストリート、公共施設に「冬の灯」をテーマとした約7,000個の紙袋ランタンを市民参加により設置、同日開催した「たきかわ冬まつり」や「商店街のイルミネーション事業」と連携を図り、2,500人ももの来街者が市内外から集まり中心市街地の賑わいに繋がった。

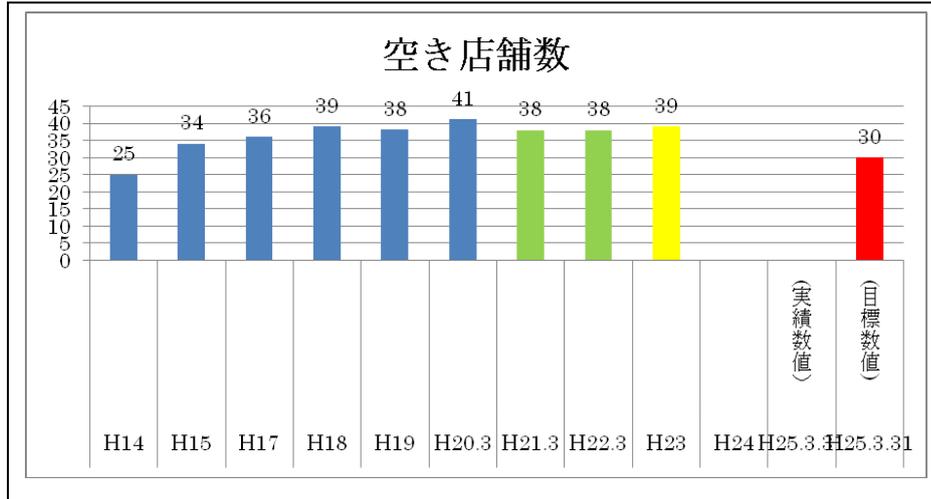
(市民参加型:一般市民、保育所、幼稚園、小学校、高校、大学、NPO団体、商店街、消費者協会、建築士会、商工会議所、行政)

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

- ・街なか通行量は、市営住宅建設事業の完了、民間集合住宅及び小規模多機能居宅介護併設の高齢者専用住宅も建設されたことにより、増加が見込める。
- ・都市福利施設として整備をしている市立病院の開院、平成23年度に開館予定の図書館移転、(仮称)まちづくりセンターの整備により、コミュニティ6施設がすべてオープンすることにより商店街への回遊が見込まれる。
- ・商店街・市民の有志により、子どもたちに街を知ってもらう取り組みとして「街づくり体感トレーディングカードゲーム(マチろ〜)」を作成した。平成23年4月から小売店での販売、個店のサービス品として提供する。小学校3年、4年生の社会科副読本にも取り上げられるなど、子どもたちからの反響やマスクミの取り上げも好意的なことから、親子を含めた回遊が見込まれる。
- ・コミュニティ施設を繋ぐ賑わい再生ロード事業も一定の成果が見られるとともに、平成22年度に「滝川市バリアフリー構想(駅前地区)」を策定、駅舎・駅前広場からベルロード、市役所、市立病院までのバリアフリーに取り組むことから、回遊性の向上が図られるため、目標達成は可能であると見込まれる。

「空き店舗数」※目標設定の考え方基本計画 P77～P80 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位) 店舗
H18	38 (基準年値)
H19	41
H20	38
H21	38
H22	39
H23	
H24	30 (目標値)

※調査方法；空き店舗実態調査

※調査月；平成23年3月

※調査主体；滝川市

※調査対象；中心市街地4商店街振興組合の空き店舗

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 商店街拠点づくり事業（事業主体名）滝川市商店街振興組合連合会

事業完了時期	【実施中】平成24年度まで
事業概要	<p>空き店舗を活用した拠点整備とチャレンジショップ等の空き店舗対策事業をパッケージで実施し、商店街の集客力向上と魅力アップにつながる事業を拠点で展開することにより商店街の賑わい創出を図る事業</p> <p>○3拠点</p> <p>①くつろぎ処</p> <p>②チャレンジコミュニティカフェ</p> <p>③チャレンジショップ</p>
事業効果又は進捗状況	<p>滝川市商店街振興組合連合会が中心となり、各商店街において家主と連携し空き店舗情報発信事業のデータ収集を行い、ホームページにおいてPRを図っており、空き店舗の問い合わせや中心市街地活性化協議会の空き店舗補助事業（チャレンジャー育成基金）について対応しているところである。また、チャレンジショップ事業については、現在、3店のチャレンジャーが入店し、1年後の独立を目指し事業を展開しているとともに、引き続き新規チャレンジャーを募集するなど育成支援を行っている。</p> <p>○平成20年度～3拠点施設設置により、空き店舗（3店減）</p> <p>○平成21年度～チャレンジショップから独立開業（1店）</p> <p>○平成21年度～空き店舗情報発信事業（5店）</p> <p>○平成22年度～チャレンジショップから独立開業（3店）</p> <p>○平成22年度～空き店舗情報発信事業（4店）</p>

②. 賑わい再生ロード事業（事業主体名）滝川市 【再掲】 P 8 参照

③. まちづくりセンター整備事業（事業主体名）滝川市 【再掲】 P 6 参照

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

- ・空き店舗数は、基本計画掲載事業がほぼ計画通りに実施され、各商店街においても家主と連携し積極的に空き店舗情報発信事業を行っていることから4店が入居し、チャレンジショップ事業はチャレンジャーの3人が独立開業するなど新規出店については一定の成果をあげている。
- ・東日本大震災後の聞き取り調査では、景気の低迷、買い控えによる購買力の低下、さらには商業者の高齢化、後継者不足により閉店を余儀なくされる状況にもあることから現時点においては数値目標である「空き店舗の減少」は、目標達成が難しいと見込まれる。
- ・今後の対策としては、中心市街地活性化協議会が創設したチャレンジャー育成基金（空き店舗対策補助金）の活用促進を図る。さらには、今年度、商店街振興組合や地元関係者が実施した「商店街共同環境施設等検討調査事業」の結果を踏まえ、新規出店者の阻害要因となっている共同環境施設等（アーケード等）の具体的な方策を検討する「(仮称) 商店街構造物等問題協議会」を組織し、「空き店舗の減少」の目標達成に向けた新たな仕組みを早急に構築し、目標の達成に向け努力する。